

人が居る場面からみた都市の“いい感じ”な場所の特性分析

大阪大学大学院工学研究科建築工学専攻 博士後期課程 小林 健治
同 博士前期課程 新村 岳広

1. 研究の目的と意義

都市の場所に対して、多くの研究が行われているが、それらの視点は大きく分けると、場所の利用状況を明らかにするもの、生活者からみた場所の意味、位置付けを明らかにするものなどがある。また、都市に関連する一連の景観研究では、人が居る風景、場面を扱ったものは皆無に近い。これらの研究の多くは、場所の意味・価値を判断する際に、当人がどう感じているかという枠組みで環境を捉えているが、場所に人が居ることを前提に場所を捉えていないように思われる。このように、人間-環境系、環境心理系の研究はあるものの、都市の中の人々が居る場面、場所の価値を読み取り、記述するといった研究、あるいは方法は、決して充分であるとは言えない。本研究は、都市の中の人々が居る場面を扱う点で「居方」という概念を参照し、“いい感じ”という表現によって都市の中の人々が居る場面(以下、いい感じの場面)を収集・分析することで、都市の中でどのような場所・場面が、いい感じに人が居る場面として捉えられているのか、その実態を明らかにすることを目的としている。

2. 研究方法

2.1. 調査方法

調査は、関西圏にある大学へ通う大学生に対して、平成15年7月から9月にかけて、レポート形式のアンケートにより調査協力を依頼した。アンケートの内容は、図1に示すとおりである。協力を依頼した255名に対し、209名からの回答があり(表1)回収されたいい感じの場面425のうち、有効な回答395(有効回収率77.5%)について分析を行った。

2.2. 分析方法

アンケートによって得られた有効な回答のうち、いい感じの場面としてあげられた場所の[場所用途]、いい感じに居る人(以下、対象)の様子([性別][人数構成][姿勢][行為])についてそれぞれ集計、分析を行った。さらに、撮影された写真から、対象の[背後環境の拡がり]について、分析を行い、調査協力者(以下、観察者)がいい感じだと感じた[理由]については、記入された自由記述文をKJ法を参照しながら、分類、集計を行った。これらの分析項目は全て、観察者が実際にみて撮影し、記入したものであるため、都市の中で対象が居ることが観察者にとってどのような意味、影響を与えうるのかをを実証することが可能であると考えられる。

都市の中で“いい感じ”に人が居る場面を見つけだし、撮影する。
～その場面について、下記項目を配布用紙に記入し、後日回収～
A-1場面の状況、A-2関係図、A-3場所の名前、A-4撮影日時を記入。
いい感じに居る人の

A-5属性

- ・性別 ... (男、女、不明)
- ・属性 ... (子供、若者、大人、高齢者)
- ・人数構成 ... (一人、二人、三人以上)
- ・関係 ... (知り合い、友人、カップル、親子、家族、通りすがり、その他)

A-6行為 ... (食べる、飲む、読む、寝る、休む、勉強・仕事、パフォーマンス、話す、その他)

A-7姿勢 ... (歩いている、座っている、立っている、寝ている、その他)

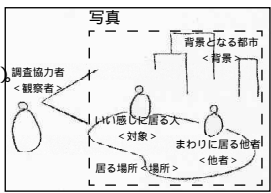
A-8状態 ... (たそがれている、なじんでいる、くつろいでいる、満喫している、さまになっている、没頭している、生き生きしている、趣がある、その他)

をそれぞれ()内の選択肢の中から選ぶ。下線部は複数可。
いい感じに居る人と

B-1周辺に居る他者との関係、
B-2居る場所との関係、
B-3背景となる都市との関係、
を絵や言葉を使って記述(自由記述)
撮影した場面について

C-1いい感じだと感じた理由
C-2場面を見たときの感覚・印象
C-3場面が成立するための条件
を絵や言葉を使って記述(自由記述)

特記事項 場所は大阪を中心とした京阪神の都市空間とし、原則としてパブリックスペース(屋内でも可)を条件とした。アンケート及び撮影を依頼するにあたり、人自体の魅力、行為自体の魅力、建物自体の魅力だけではなく、人が居る様子、写真としての風景の魅力を大事にして撮影するよう、サンプルを紹介しながら説明した。



調査モデル

図1 アンケート概要

表1 アンケート回収状況

協力依頼者数	協力者数	男性	女性	回収データ	回収率	有効データ	有効回収率	調査日程
0大学2回生46名	44名	34名	10名	88	95.7%	86	93.5%	7/14 説明・記入用紙配布 9/1 回収
S大学3回生101名	88名	69名	19名	185	91.6%	180	89.1%	7/1 説明・記入用紙配布 7/22 回収
K大学2回生108名	77名	48名	29名	152	70.3%	129	59.7%	6/28 説明 7/7 記入用紙配布 7/22 回収
合計 255名	209名	151名	58名	425	83.3%	395	77.5%	

表2 いい感じの場面 - 場所用途分類

場所用途	0大学	S大学	K大学	度数	%	屋内/屋外	都市/自然		
A 屋内空間	2	6	7	15	78.9	屋内空間 4.8%	都市/自然		
アトリウム・ロビー	2	6	7	15	78.9				
屋内スポーツ施設	0	0	2	2	10.5				
教室	0	0	1	1	5.3				
飲食店	0	1	0	1	5.3				
小計	2	7	10	19	4.8				
B 半屋外空間	1	2	2	5	25.0			都市空間 45.4%	都市/自然
駅構内・コンコース	1	2	2	5	25.0				
オープンカフェ	0	1	5	6	30.0				
地下街広場	2	2	0	4	20.0				
商店街・アーケード	1	0	3	4	20.0				
バッティングセンター	0	0	1	1	5.0				
小計	4	5	11	20	5.1				
C 建物に付随する空地	16	7	6	29	39.7	屋外空間 95.2%	都市/自然		
(足元)空地・広場	16	7	6	29	39.7				
(屋上)空地・広場	11	6	2	19	26.0				
(地下)空地・広場	2	1	3	6	8.2				
(中間)空地・広場	1	2	0	3	4.1				
大学キャンパス	0	3	2	5	6.8				
住宅街	0	1	2	3	4.1				
複合商業施設	0	0	2	2	2.7				
小学校・児童館	0	0	2	2	2.7				
美術館	1	0	1	2	2.7				
小計	31	20	22	73	18.5				
D 都市空間	7	12	14	33	49.3	屋外空間 95.2%	都市/自然		
道端・通路	7	12	14	33	49.3				
駅前広場・街角広場	4	8	15	27	40.3				
神社	2	3	0	5	7.5				
駐車場	0	2	0	2	3.0				
小計	13	25	29	67	17.0				
E 公園	6	33	7	46	62.2			自然空間 54.1%	都市/自然
自然公園	6	33	7	46	62.2				
児童公園	1	7	6	14	18.9				
都市ポケットパーク	1	2	4	7	9.5				
テーマパークの公園	1	5	1	7	9.5				
小計	9	47	18	74	18.7				
F 川辺	4	42	2	48	78.7	自然空間 54.1%	都市/自然		
河川敷・土手・公園	4	42	2	48	78.7				
川辺(建物)	7	1	0	8	13.1				
川(親水)	2	2	1	5	8.2				
小計	13	45	3	61	15.4				
G 海辺	13	12	24	49	62.0			自然空間 54.1%	都市/自然
海際・公園	13	12	24	49	62.0				
海辺(建物)	1	15	8	24	30.4				
海(ビーチ・砂浜)	0	3	3	6	7.6				
小計	14	30	35	79	20.0				
H その他	0	1	1	2	100.0	他 0.5%	都市/自然		
その他	0	1	1	2	100.0				
小計	0	1	1	2	0.5				
合計	86	180	129	395	100.0				

注) 灰色部分はグループの小計、網掛け部分はグループ内割合が20%以上を表す。

表3 いい感じの場面 - 対象の性別、人数構成

[性別]	男性のみ	女性のみ	男女両方	無記入	合計	
事例数	145	62	182	6	395	
%	36.7	15.7	46.1	1.5	100.0	
[人数構成]	1人	2人	3人以上	無記入	合計	
事例数	106	149	139	1	395	
%	26.8	37.7	35.2	0.3	100.0	
[人数構成]	1人	2人	3人以上	注) 集団が他人については、A-5[属性]の関係から読み取った。		
	男性1人	女性1人	集団	他人	集団	他人
事例数	81	25	136	13	86	53
%	76.4	23.6	91.3	8.7	61.9	38.1

表4 いい感じの場面 - 対象の姿勢、行為

姿勢	度数	%	行為	度数	%
歩いている	69	13.2	食べる	38	5.9
座っている	270	51.5	飲む	40	6.3
立っている	124	23.7	読む	24	3.8
寝ている	18	3.4	寝る	14	2.2
その他	42	8.0	休息	175	27.4
無記入	1	0.2	勉強・仕事	8	1.3
合計	524	100.0	パフォーマンス	16	2.5
			話す	167	26.1
			その他	152	23.8
			無記入	5	0.8
			合計	639	100.0

注) 姿勢) その他の内訳は、遊んでいる、つり等で、[姿勢]と呼べるものは少なかった。

注) 行為) その他の内訳は、遊ぶ(遊ぶ/27、スポーツ/11、釣り/6、砂いじり/1、昆虫採集/1、水遊び/1、囲碁・将棋/1等) 眺める(見る・見つめる/22等) 散歩(歩く/15、散歩/5等) 待つ(待っている・待ち合わせ/13等) その他(たばこ/5、携帯/5) 等である。

背後環境の拡がり方	[クローズ]	[セミクローズ]	[セミオープン]	[オープン]
度	38	32	73	108
数	2	2	8	96

注) その背後の環境が撮影された場面からでは判断できないものが、座っている270場面中19場面、立っている124場面中16場面あった。

図4 いい感じの場面 - 背後環境の拡がり

3. 場所用途分類

実際に撮影されたいい感じの場面について、その場所の名前に着目し、その用途分類を行った(表2)。上位に挙げられたのは、F 川辺、G 海辺などの水辺のオープンスペース(35.4%)全体の約4割を占める結果となった。ついで、E 公園(18.7%)、C 建物に付随するオープンスペース(18.5%)、D 都市空間(17.0%)となっている。

全体的にみると、屋外空間に比べ、屋内空間は圧倒的に少なく、都市的な空間に比べ(45.4%)、緑や水といった自然空間が多くあげられた(54.1%)。外部空間の中では、E 公園は必ずしも多くない結果となった。

4. いい感じに居る人の様子

4.1. [性別][人数構成][姿勢][行為]

[性別][人数構成]に関する集計の結果(表3)対象の[性別]は、女性のみが最も少なく(15.7%)、都市のパブリックスペースにおいて女性のみで居る場面をいい感じだと感じられることが、男性のみ、あるいは男女両方が居る場面に比べて少ないという傾向を読み取ることができる。[人数構成]は、際だった傾向は見られないが、強いていえば、1人が少ない(26.8%)。さらに、[人数構成]別に特徴を見ていくと、その性別内訳は、男性に比べて女性が極端に少ない。また、対象が2人、3人以上の場合でも、その多くが集団、つまりカップルや親子などの何らかの関係をもっているグループを対象としている場面が多い。

次に、[姿勢][行為]をみると(表4)座っているが全体の半数以上を占めており(51.5%)、都市の中で対象が座って休息している場面をいい感じだと感じるという傾向を読み取ることができる。[行為]は、休む、話すなどの日常にありふれている行為、特別何かしているというわけではない行為が多く挙げられ、逆に、勉強・仕事、パフォーマンスといった行為は多く挙げられてない。

4.2. [背後環境の拡がり]

実際に撮影された場面から、対象の姿勢が座っている、または立っている場面に対し、対象の[背後環境の拡がり]を読み取り、その拡がり方から4段階に分類した結果(図4)、[背後環境の拡がり]はオープンあるいは、セミオープンな場面が多く見られた。一般に人間は背後を守られた安定した場所に座ることを好むといわれているが、観察者からいい感じに見えるかということとは限らないことがわかる。

) 対象が いい感じ		132
対象のキャラクターに起因	原文抜粋	
[対象の行為・様子] 80		
くつろいでいる/15 楽しそう・幸せそう/8 親密さ・雰囲気/15 行為・スタイル/13 場所の使い方/23 対象同士の関係/5 対象の日常と違う様子/1	自然の中でくつろいでいる様子が良かったから (K-068) 読書といえは屋内(自宅)でするのが一般的であると考えていたが、屋外へ出て、気持ちよく読書に没頭している様子が良いと感じた。(S-069)	
[対象の属性・社会関係] 52		
幸せ家族・ほのぼの親子/29 無邪気な子供/17 高齢者・夫婦/6	少し石の間隔が広くて、川に入りながら渡っていくのは小さい子ならではの、母親が見てくれるから思いきり、無邪気に川に入っ て遊べる、という親子愛や信頼関係が いい感じ。(O-044)	
) 対象が居る場所が いい感じ		26
対象が居る場所に起因		
[場所の魅力] 26		
場所がいい/15 風景がいい/4 場所の時間的変化/7	静かでさわやかだった。歴史的な建物が異空間 でよかった。(K-140) 海をながめらるるように高い場所にあり、海側が 開放的になっていていい感じだった。(S-173)	
) 対象と場所の関係が いい感じ		144
対象と居る場所の関係に起因		
[コントラスト・対照的] 40		
スケール感の違い/9 都市のにぎやかさと対照性/25 歴史との対照性/4 公と私/1 生活とのギャップ/1	広大な海と1人の人間が対照的でいい感じだっ た。この人が海に包まれているような感じが い感じだった。(O-005) 都市の大きなビルの下であるが、都市の時間に 違われた生活を忘れたようなカップルが居たか ら。(O-062)	
[ひとりじめ・自分の世界] 22		
占有的/3 個人的/3 自分たちの世界/6 じゃまするものがない/4 ボツンと居る/3 都市の中のひとり/2 都市を見わたす/1	雨あがりだったのでこの場には誰もいなかった ため、この男性1人でこの景色を1人じめして いる所がいい感じだと思った。(S-055) まわりにも誰もいないところにぼつんと散歩 しているところが妙にいい感じだった。(S-169)	
[フィット・合っている] 46		
都市のもつイメージと合っている/8 その場の風景と合っている/14 のんびりとした場所と合っている/8 相応しい使い方・場所/12 時間の流れと合っている/4	無邪気に水辺で遊ぶ子供達を見て、日曜日の晴 れた公園というイメージにとってもぴったりだっ たため。(S-144)	
対象と居る場所の関係から見出された意味に起因		
[対象によって生まれる場所(の意味)] 28		
---できる場所・---な場所/21 使われ方/3 象徴的/1 人が集まれる場所/3	歴史もあり、よくデザインされた通りを、人びと が思い思いに行き交い、それによって活気や活 力が生まれている。大阪の象徴のような場所だ と思う。(O-004)	
[場所によって生まれる対象(の意味)] 8		
さまになっている/4 ひきかたっている/4	日常生活とは別な時間をこの公園で過ごしてい る親子の行動が絵になっていて、いい感じだ と 思った。(S-003)	
) 対象と他者との関係が いい感じ		66
対象と他者との関係に起因		
[対照的] 16		
対照的な様子/6 異質な行為/6 異なる世代/2 異なる服装・属性/2	このカップルのうしろにはベンチがたくさん置 いてあって、カップルがいっぱいまってご ちゃごちゃしていたが、それと対照的にこの カップルはのんびりした雰囲気をかもし出して いていい感じと思った。(O-006)	
[それぞれ・様々] 27		
さまざまな行動・行為/16 さまざまな世代・年齢層/4 それぞれの時間・空間/7	買い物途中の親子がいたり、友達同士で楽 しんでいたりと同じ空間にいながそれぞれの 時間をすごしているので。(K-151)	
[場の共有] 18		
共有している/8 他者との距離感/8 一時的な共有/2	この場のほとんどの人が一人で座っていて、そ の目的も人様々であるところと、その人達が この空間に共有的にいるところがいい感じだ と 思った。(S-127)	
[その他の関係] 5		
他者への配慮/1 他者からの配慮/1 他者によってひきかたてたらる/1 みんながいい感じ/2	必ず、座席を1つ空けて座っている。男の人の荷 物も座席に置けるにもかかわらず置いていない。 気をつけているのが分かるから。(S-005) 同じ場所でも個人個人で動きが違いお互いをひ き立てているから。(K-108)	
) 観察者への作用が いい感じ		40
観察者の経験(追憶・憧憬)・嗜好に起因		
[私 対象] 17		
自己の投影/5 いいイメージ/6 新たな発見/5 思い入れ/1	今の子供達は外で遊ぶことが少なくなったにも 関わらず、噴水の水で遊ぶ子供達がめずらしく 思った。昔の自分を思いだしたつつかして、いい 感じだと思った。(S-101)	
[私 場所] 19		
私のお気に入り/11 ---したくなる場所/5 実体験していい感じの場所/3	僕もこの場所が好きでよく足を運ぶ。特に夜は 消走路のライトやマンションがとてきれいで 楽しい。(O-074)	
[私 光景] 4		
見慣れた光景/3 見慣れない光景/1	都市ではあまり見られない光景だと思う。実は 撮影前にハトの数がもっと多かったが、人が近 づいていくと飛んでしまった。(O-082)	
) その他		13
総計		421

図5 いい感じの場面 理由の分類

4.3. いい感じだと感じた理由

次に、いい感じだと感じた理由(自由記述文)を2.2.分析方法に従い、分類した。その結果、395データから421の理由表現が得られ、大きく6つに分類した(図5)。具体的には、対象が「くつろいでいる」様子「楽しそう」な様子や、「仲の良い家族」「元気な子供」など、対象のキャラクターに起因する【()対象が いい感じ】その場所や背景の「開放性」「雰囲気」など、対象が居る場所に起因する【()対象が居る場所が いい感じ】「対照的」「合っている」など、対象と対象が居る場所との関係に起因する【()対象と対象が居る場所との関係に起因する】「対照的」「さまざまな行為」「共有している」など、対象と周囲に居る他者との関係に起因する【()対象と他者の関係が いい感じ】「私の好きな場所」「私もまねしたくなる」など、観察者の経験、嗜好に起因する【()観察者への作用が いい感じ】と【()その他】の計6つの枠組みで捉えることができた。このうち()場所との関係では、「対照的」「占有的」「合っている」といった、()対象と場所との直接的関係を表す語彙と、「ゆっくりとできる場所」「のんびりとくつろげる空間」など対象が居ることによって発見される場所の意味、場所に居ることによって見出される対象の意味といった、()対象と場所の相互浸透的な関係を表す語彙に分類することができる。

その割合は、()対象と場所との関係が一番多く(34.2%)、ついで()対象(31.3%)でこの2つを合わせて全体の6割以上を占める。以下、()対象と他者との関係(15.6%)、()観察者への作用(9.5%)、()場所(6.2%)と続いている。また、対象との関係表現については、()対象と他者との関係は、()対象と場所との関係に比べ少なく、対象が他者と居る関係をいい感じだと感じにくい、もしくは対象と他者のいい感じな関係を作ることができる場所が少ないといった傾向を読み取ることができる。

5. まとめと考察

5.1. いい感じの場面に見られる傾向

ここまでの分析から収集された場面には、場所用途、対象の様子、理由にいくつかの傾向が見られた。場所用途は、1) 水辺が多く、対象の様子から、2) 女性のみで居る場面が少ない、などの傾向がみられ、対象が3)複数人(2人や3人以上)で居る場合に比べ、1人で居る場面をいい感じであると感じられる機会が少ないことがわかった。複数人で居る場合も、カップルや家族連れなど集団で居る場面に比べて、4) 都

市の中で対象が見知らぬ他者と居る場面は多く挙げられなかった。5) 対象が座っている場面が半数以上を占めたことから、人が座ることができる場所、座って居られる場所の重要性が再確認された。また、座っている人、立っている人の背後の環境の広がり、6) 背後を守られていないオープンに居る人の方が多い。さらに、観察者がいい感じだと理由から、<対象> <他者> <場所> <観察者> とそれらの関係という枠組みでいい感じの場面をみると、7) 対象そのものや場所そのものを起因とする場面も多く見られるが、場所や他者との様々な関係を観察者が読み取ることにより、いい感じであると認識される場面も都市生活において少なくない。その関係表現のうち、場所との関係に比べ、他者との関係が少ない傾向にあったことは、都市が「居合わせる」ための場所として確立していないことを表しているように思われる。

以上のことから、これらの傾向を前提に都市の中に人が居られる場所が計画されていくべきではないかと思われる。

5.2. いい感じの場面の場所特性

分類された理由と場所用途との関係を見ると(図6)) 対象と場所との関係については、C 建物に付随する空地、E 公園、G 海辺、F 川辺で多く挙げられているが、D 都市空間が他に比べて少ない(図6 部分)。これが、) 対象と他者との関係と比べると、逆にD 都市空間が最も多くなる。その他、) 対象に関しては、ほぼ全部の場所用途から挙げられているが、) 場所に関しては、E 公園、F 川辺、G 海辺などの水辺の自然的空間が、C 建物に付随する空地に比べて多く挙げられている。このことから、対象とまわりの環境の関係は、環境が異なることで、その関係が浮かび上がりやすい場所とそうでない場所があることがわかる。

また、5.1.の傾向のうち、2) 女性のみで居る場面に関しては(図7上段)、公園などの自然の中が多く、のんびりしている様子をいい感じとして挙げている場面が多い。同様に、4) 他者と居る場面に関しては(図7下段)、駅前広場、道端などの都市空間での場面が多く、駅、道という都市性をもった場所が多く挙げられた。2)や4)のような場面は全体的には少ない。このことに留意し計画していく必要があると思われる。

6. 結

今回、様々な都市の中のいい感じに人が居る場面が収集された。一般に“いい感じ”という表現は、対象の様子・雰囲気などの対象自身に対する表現であると思われるが、対象とまわりの環境との関係についても収集することができた。これまで人が居る場所の意味や価値、快適性は、当人の満足度などによって表現されることが多かったが、都市に人(本研究における対象)が居ることが、生活者(同観察者)にとって意味があり、そこに居る人を通して多様な読み取りをすることができる、またそれをもとに場所をみる方法論の可能性があるといたったのではないだろうか。今後は、データの一般性を検証するため、いい感じに対する世代間差異、や「私(観察者)」の生活といい感じの場面の関わり方、関係性が浮かび上がってくるためのデザイン、などの調査・分析を行い、人が居られる場所として都市環境デザインの方向性を探っていきたい。

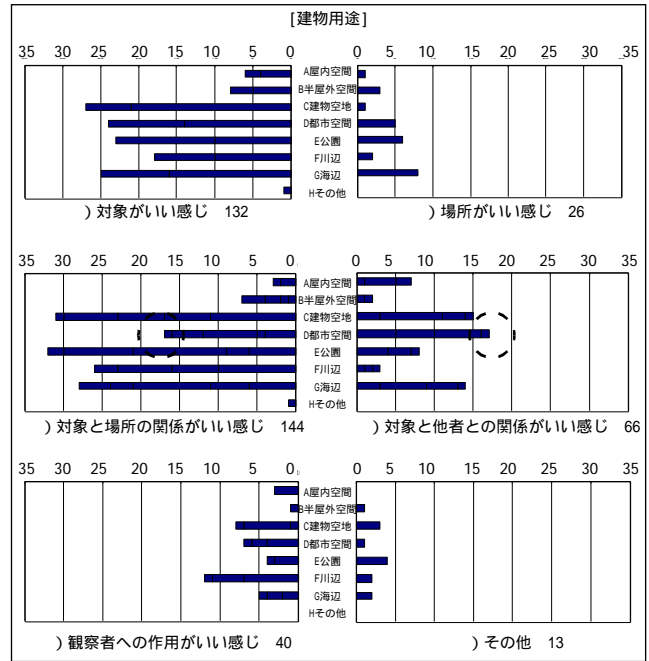


図6 いい感じの場面 - 場所用途と理由

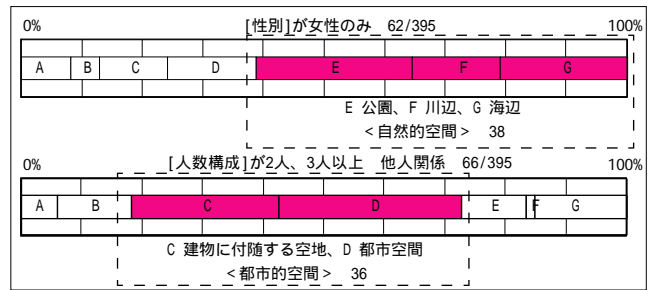


図7 少数だったいい感じの場面の建物用途別傾向

参考文献

鈴木毅「人の「居方」からの環境デザイン」建築技術1993.07-1995.12
J.ゲール「屋外空間の生活とデザイン」北原理雄訳 鹿島出版会1990

謝辞

本研究にあたり調査に協力して下さった方々をはじめ多くの方々に御協力いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。